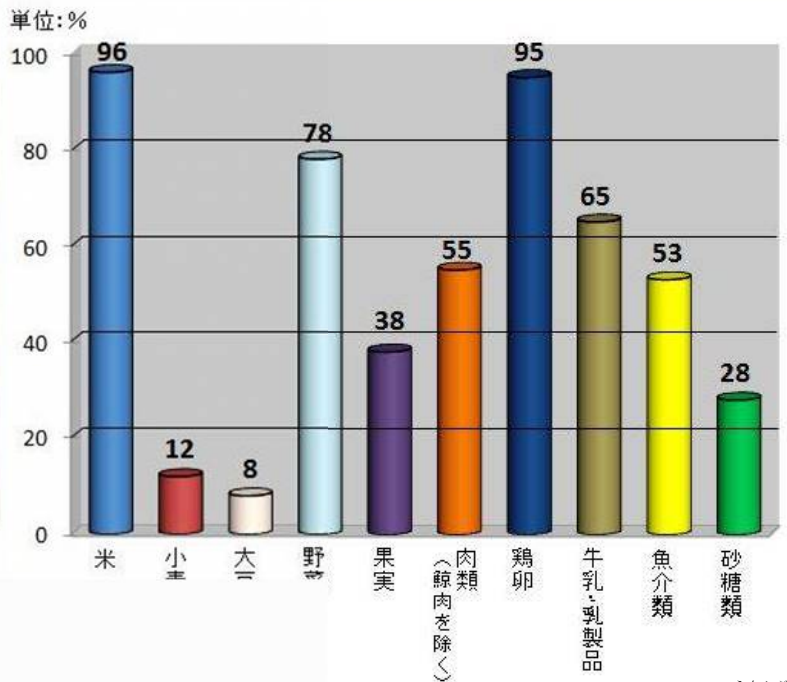


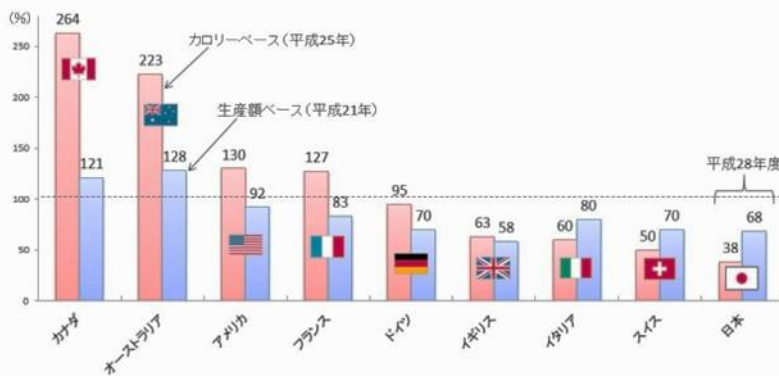
平成24年度品目別食料自給率(重量ベース)

	1970年	1990年	2019年
米	106%	100%	97%
いも類	100%	93%	73%
小麦	9%	15%	16%
大豆	4%	5%	0%
野菜	99%	91%	79%
くだもの	84%	63%	38%
肉類	89%	70%	52%
たまご	97%	98%	96%
牛乳・乳製品	89%	78%	59%



日本の食料の自給率の移り変わり

低い食料自給率



今の日本で、国内でまかなえている農産物は米と鶏卵(ニワトリの卵)くらいです。

パンの原料の(1)や、醤油・みその原料になる(2)の自給率はとても低く、そのほとんどを(3…外国名)やオーストラリア・中国などから輸入しています。

そのため、日本の食料全体の自給率はカロリーベースでおよそ(4)%くらいしかありません。

こうなった理由は、①日本人の食生活が変化して、パン・肉類・乳製品などを食べる機会が増えたこと。

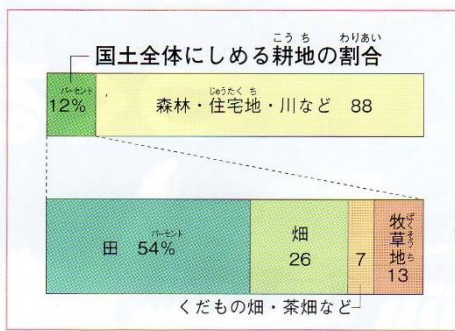
②外国でつくられた農産物の方が安いこと。③農産物をもっと輸入するよう、外国から求められたこと。

④輸送技術が発達して、農産物を新鮮なまま輸入できるようになったこと、などです。

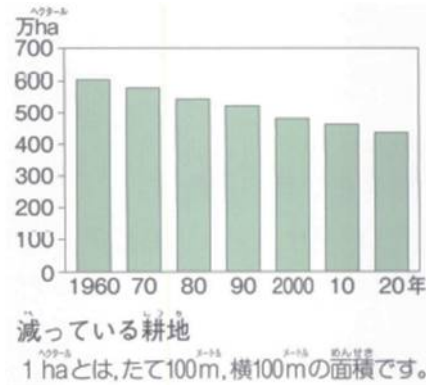
食料の輸入によって、消費者はいろいろな農産物を一年中、しかも安く手に入れることができるようになりましたが、農薬をどのくらい使っているか、輸入した食料が安全であるかどうか問題になります。

さらに、あまりに多くの食料を外国にたよりすぎると、輸入相手先の事情で食料を輸入しにくくなることも考えられます。このように、食料を外国にたよりすぎることはとても危険なことなのです。

減り続ける日本の耕地



日本の土地利用 (2011年)



1 haとは、たて100m、横100mの面積です。

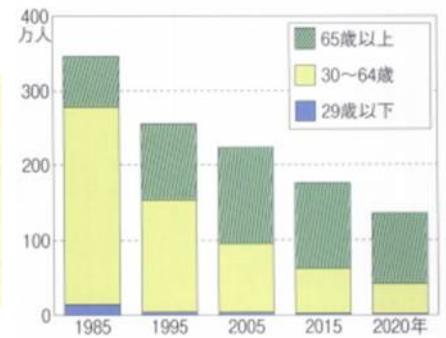
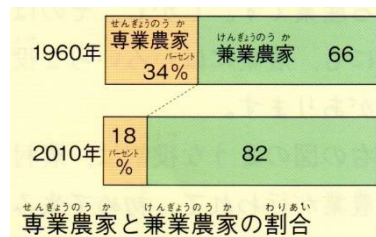


手入れをする人のいない棚田

日本の国土は約(5...分数で)が山地で、約(6...分数で)が森林です。もともと耕地が少ないうえに、大都市の周辺では耕地が住宅地へ変わったところもあります。さらに、平野のはしから山にかけての中山間では耕作をやめる農家が増え、日本の耕地は減り続け、農家の数と農業で働く人の数は大きく減りました。

減り続ける農家

農家一戸あたりの平均耕地面積は約2.0haと規模の小さい農家が多くなっています。1haとは、たて100m、横100mの面積のことです。



おもに農業で働く人の数の変化

また、農家は、収入の面から見て、農業だけを行う(7...?農家)と、農業だけでは生活できないためにほかの仕事も行う(8...?農家。ひらがな可)に分けられ、日本の農家は(8)がそのほとんどをしめています。このように、農業だけで生活していくのはむずかしいことなのです。

さらに、農作物を作る目的の面から見ると、農作物を売ることとする(9...?農家)と、家族で食べる程度の農作物をつくる(10...?農家)に分けられますが、これらの農家のほとんども農業だけでは生活できていません。

すすむ高齢化

農業で働いている人の半分以上は、(11)歳以上の人のことをいう高齢者です。多くの農家では後継ぎが不足しており、農業で働いている人の数は、1960年のときのおよそ4分の1に減っています。

日本の農産物はなぜ高い?

日本の農業は品種改良を行い、せまい耕地で多くの人手や手間をかけ、多くの肥料を使って生産を増やす(12...?農業)のため、同じ面積で収穫する穀物の量をくらべると、日本は世界の中でも多い方なのです。

また、同じ耕地で、一年間に二種類の作物をつくる(13...漢字で?作)を行ったり、ビニールハウスなどの施設を用いて栽培したりすると耕地を有効に利用でき、せまい土地でも収穫量を増やすことができますが、多くの人手をかけ、肥料や施設を利用すれば農業生産に多くのお金がかかります。

そのため、日本の農産物は外国でつくられたものよりも高くなって価格での競争に負けてしまうのです。

しかし、日本の農産物は安全でおいしいとの評価を受けています。さらに、和食が世界でも人気になっており、日本の農産物の輸出額は増えてきています。国も日本の農産物の良さを世界に広めていこうとしています。

農業のもたらす恵み

農業は、わたしたちの食料である米・野菜・畜産物

などをつくるほかにいろいろな役割があります。

たとえば、田に水をたくわえることで、洪水を防ぐ役割をしています。そのため、田も森林と同じように(14…?)といわれています。

また、田は気温を調節し、生物のすみかをつくり、きれいな水をつくってくれています。そのため、環境を

そこなわないように、化学肥料や農薬を使わないで、(15)による土づくりを行う(16…?栽培)に取り組む農家が

増えています。こうした土から生まれたものを土に返すという考え方にもとづいた農業を(17…?農業)といいます。わたしたちは、このようにしてつくられた農産物を買うことによって環境を守るための努力を応援することができます。



農業・農村のもたらすめぐみ